凡事徹底・活力・環境

5五小だより

http://5s.hyama.andteacher.jp

令和 8年 6月 1日
No.3
東大和市立第五小学校
TEL (042) 562-1981
FAX (042) 590-7022

「叱る」＝「愛情をもって導くこと」

校長　宮﨑　貴仁

学校教育を取り巻く環境は、ここ数年で大きく変化しています。特に、子供への指導の在り方については、「体罰」「暴言」への厳しい目が向けられ、学校も常に慎重な対応が求められる時代となりました。体罰はもちろん、子供の人格を傷つけるような指導や、感情的な叱責は決して許されるものではありません。しかし、一方で、教員が「強く言うと問題になるのではないか」「保護者から苦情が来るのではないか」と不安を抱え、子供たちに対しての必要な注意や指導までが、どうしても弱く、甘くなってしまう場面が増えているように感じることがあります。

子供たちは本来、たくさんの失敗をしてそれに対して注意、指導を受けながら成長していくものです。特に「危険なこと」「自分勝手なこと」「他者を傷つけること」等は、子供たちの健全育成・安全管理上、学校としてはしっかりと指導しなければなりません。社会には「してよいこと」と「してはいけないこと」といったルールがあります。「ならぬものはならぬ」という周りの大人の毅然とした姿勢は子供たちが学校という社会の中で集団生活を送るうえで大切な土台となります。優しく指導するだけで、自分の犯した過ちへの反省や、規範意識は育つのでしょうか。時には強く叱ることも、子供たちを大切に思い、健全に育ってほしいと願う大事な教育の一つではないでしょうか。

数年後、子供たちが社会に出た時のために、相手を思いやること、ルールを守ること、責任を果たすことなど、人として大切なことを子供のころから身に付けさせる必要があります。その大切な役割を学校は担っています。

私たち教職員は、子供たち一人一人を大切にしながらも、間違った行動に対しては毅然と向き合い、これからも子供たちにとって必要だと思われる指導をしてまいります。すべての指導は「子供たちの健全な成長のため」であることを大切にしていきます。

子供たちを真に育てるためには、学校だけではなく、ご家庭や地域の皆様との連携・協力が欠かせません。「叱ること」＝「愛情をもって導くこと」であるという共通理解のもと、子供たちの成長を共に育んでいきたいと思います。今後とも本校の教育活動に、ご協力とご理解のほどよろしくお願いいたします。